



今年で56回目——水辺に灯る、心の絆

厚田灯籠流し



清水の浜



会場では、厚田自慢の
おいしいグルメも並びました。



清水の浜へ
灯籠流しに向かう人々



今年も
無事56回目を開催
することができました。
これからも地域に
根差した行事として
続けていければと
願っています

こうりゆう
厚龍寺 住職
伊藤 電弘 さん

厚田区集落支援員
八木沼幸恵さん



プロフィール■厚田出身。
実家は農家。厚田の人
や環境、自然に育てて
もらっ!と思っていて、
「厚田のためなら」と令和4年度から厚田区集
落支援員として活動中。趣味は多趣味。英語
は話せるけど計算は苦手。SNSでは厚田の情
報を発信しています。

厚田の集落支援員やぎゆきです! 今
回は厚田に半世紀以上続く「厚田灯籠流
し」をご紹介します。

今年56回目を迎えたこの行事は、70年
ほど前から厚田の厚龍寺で続いていた
灯籠流しを、旧厚田村が開村100年を
迎えた際、村内6つのお寺が記念事業と
して共同開催したことがはじまりです。

毎年8月20日に行われていて、今年も
700〜800の灯籠が、会場となった
旧厚田小学校のグラウンドに運ばれて
きました。例年、お参りの後に、歩いてす
ぐの清水の浜へ皆で向かいますが、近年
はその前に盆踊りをしたり、屋台でおい
しいものを食べたりと、お祭りの要素が
加わっています。厚龍寺の住職 伊藤電弘
さんに伺うと、「コロナ禍でさまざま
なお祭りが中止になり、人々が集う場が
減ったことにとっても危機感を持ちまし
た。それで地域の人々、特に子どもたち
が少しでも楽しめる機会をつくれたらと
思い、今の形になりました」と話してくれ
ました。

お盆の終わりに行われるこの行事のた
めに、厚田に帰省する方もいるそう。ど
なたでも参加できますので、厚田の人々が
大切にふないできた文化の一つ「厚田灯籠
流し」を味わいに来てはいかがですか?

広告